問題

65歳男性。肝細胞癌に対する内科的根治療法のため入院した。

【現病歴】

アルコール性肝障害、2型糖尿病で近医受診中。胃カメラ、腹部エコーを施行された際に肝細胞癌、食道静脈瘤を指摘され治療目的に紹介受診された。

2020年に食道静脈瘤に対して内視鏡的静脈瘤結紮術を行ったのちに、肝細胞癌に対する治療目的で入院となった。

【既往歴】2018年　早期胃癌ESD治癒切除後。

【薬剤】リナグリプチン、メトホルミン塩酸塩錠、ダパグリフロジンプロピレングリコール水和物、グリクラジド、エソメプラゾールマグネシウム水和物、ウルソデオキシコール酸

【生活歴】飲酒：ビール350ml 4-6本/日

【身体所見】身長 160㎝、体重 63kg、血圧118/86 mmHg、心拍数 96回/分、体温36.6℃

意識清明。眼瞼結膜蒼白なし。眼球結膜黄染目立たず。皮膚黄染なし。

胸腹部：特記事項なし　腹壁軟で圧痛なし。下腿浮腫なし。

【検査所見】

エコー：肝表やMorrison窩に腹水なし。

血液検査：赤血球468万/μL、白血球4630/μL、血小板7.8万/μL、

総ビリルビン1.5mg/dL、直接ビリルビン0.3mg/dL、血漿総蛋白 8.3g/dL、Alb 3.6g/dL、

BUN 16 mg/dL、クレアチニン 0.8 mg/dL、Na 135 mmol/dL、K 4.1 mmol/dL、Cl 98 mmol/dL、Ca 9.3 mmol/dL、PT％ 78%、AST 55 U/L、ALT 47 U/L、γ-GTP 734 U/L、AFP 9ng/mL、AFP-L3% 5.4%、PIVKA-Ⅱ 56.0ng/mL

問題１ Child-Pughスコアは何点か。

a. 5点

b. 6点

c. 7点

d. 8点

e. 9点

本症例に対してラジオ波焼灼療法を行った。

問題2 ラジオ波焼灼療法の適応となるのはどれか。2つ選べ。

a. Child-Pugh A、腫瘍径３cmの単発の肝細胞癌。

b. Child-Pugh A、腫瘍径６cmの単発の肝細胞癌。

c. Child-Pugh スコア6点、腫瘍径２cm、３cmの2つの肝細胞癌。

d. Child-Pughスコア７点、脈管侵襲を認める肝細胞癌。

e. Child-Pughスコア10点の1.5cmの再発肝細胞癌。

問題

78歳男性。腹部画像検索で異常を指摘され治療目的で入院した。

【現病歴】

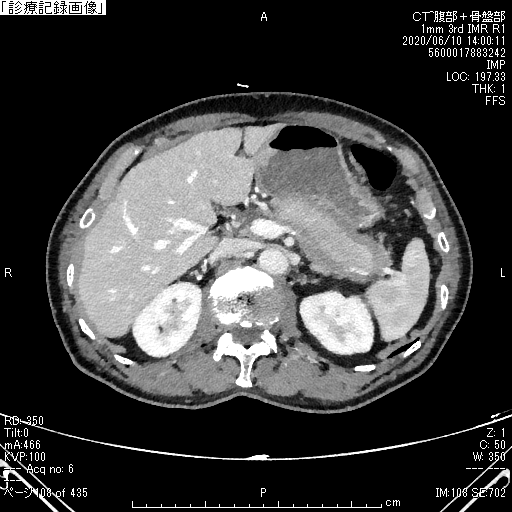
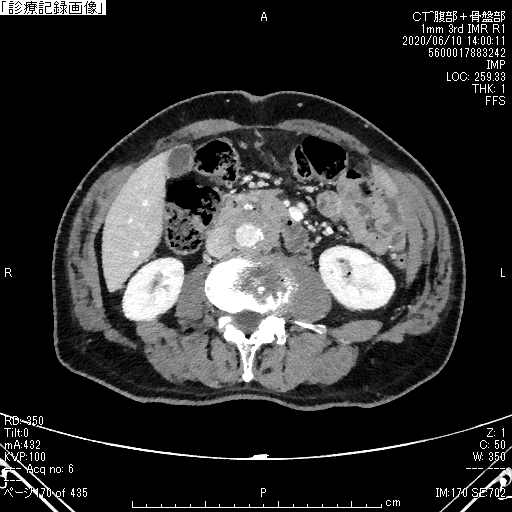
1年半前に両側顎下腺腫脹を主訴に耳鼻科を受診した。病変を生検した結果、悪性ではないと診断され通院している。

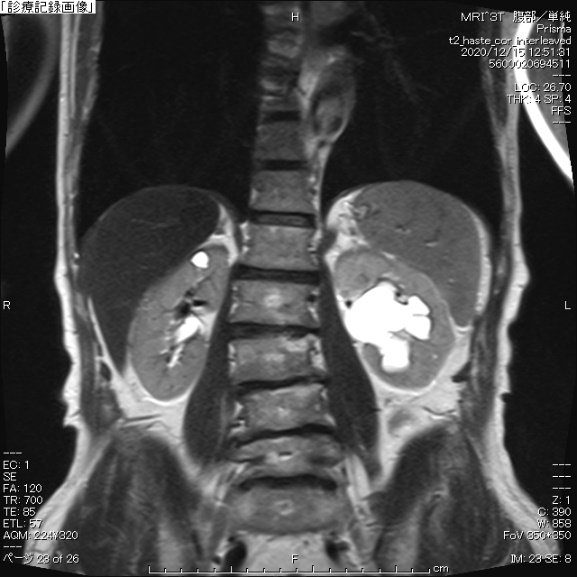
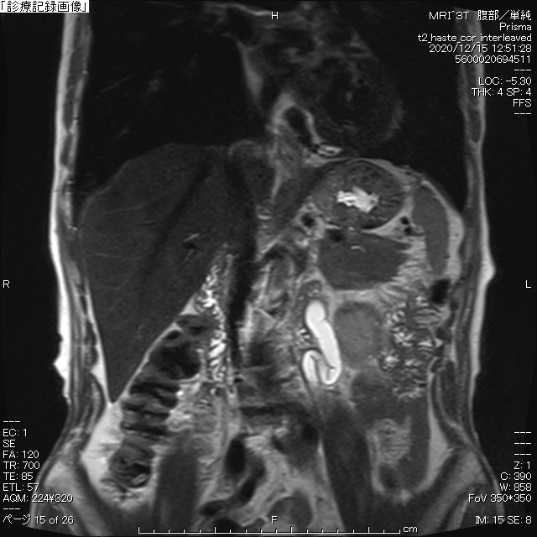
耳鼻科で施行した腹部画像検索で膵軟部影、腹部大動脈周囲軟部影の精査目的で消化器内科紹介となった。超音波内視鏡で膵体尾部の所見は自己免疫性膵炎と矛盾せず、その他膵上縁、大動脈周囲にリンパ節腫大を認めた。

半年前の検査では血管周囲の軟部影の増大を認めた。

半月前の検査で病変の増大を認め治療目的に入院となった。

腹部造影CT、MRIを以下に示す。





問題１ 画像所見で見られないものはどれか

a. 腎嚢胞

b. 膵のソーセージ様腫大

c. 大動脈周囲の軟部影

d. 脾腫大

e. 水腎症

ステロイド内服による治療を行うことになった。

問題２ ステロイドによる治療に伴い、必ずしも必要でない検査はどれか。

a. B型肝炎ウイルス感染の検査

b. 眼圧測定

c. 糖尿病の有無の確認

d. 血中コルチゾールの測定

e. 骨密度検査